

FCT 第18回メディア・リテラシー研修セミナー報告

若い人びとと市民参加のメディア・リテラシー

～脱「難しいことはよくわかりません」宣言～

FCT では、『Study Guide メディア・リテラシー入門編』（2000 年）を発行したのを機に、系統的にメディア・リテラシーを学ぶ場を設定し、ファシリテーターおよび、ファシリテーターを目指す人びとのために、毎年、研修セミナーを開催しています。

今回は大阪教育大学メディア・リテラシー教育研究会の共催を得て、大阪教育大学天王寺キャンパスで、2015 年 8 月 22 日（土）～23 日（日）におこないました。

参加者は、関西圏を中心に、青森県、千葉県、東京都、神奈川県、鳥取県などからも集まり、大学生・大学院生、教員、NPO 関係者、市民活動家などです。このように多様な参加者によるセミナーは、今後、各地域でのメディア・リテラシーの実践に繋がる事業であると確信しています。

●セミナーの概要

1) 1日目

セッション 1 (S1) 「私・私たちのメディア史」は、2 日間の研修に先立ち、まず、参加と対話によるワークショップを体験し、子ども時代のメディアとの関わりを通してメディアを意識化するとともに、参加者間のコミュニケーションを図るためのセッションです。

S2 「メディア・リテラシーを学ぶ①」は、『最新 Study Guide メディア・リテラシー入門編』をベースに、メディア・リテラシーとは何か、どう学ぶのかについて、定義、基本概念、分析の仕方、学びのスタイルなどについて解説しています。（講義）

S3 「CM で学ぶ映像言語」では、映像メディアをクリティカルに読み解くために、その基本となる映像言語を、テレビ CM 「タントカスタム」をテクストとして視聴し、各自分析シートに記入し、ワークショップ形式で学びました。

S4 「CM が提示する価値観」は、新しい試みとして、各自、パソコンを使用しデータを作成し、その後、ワークショップを実践しました。ソフト「WVCex」を使用するデータの書き込みにおいては、各自が自分のペースで画面上のテクストを見て作業することができます。テクストはテレビ CM 「スプライト」「スミノフ」の 2 本です。

2) 2日目

S5 「メディア・リテラシーを学ぶ②」は、デジタル時代のメディア・リテラシー論について解説し、世界的な流れとして、ルネ・ホップスの理論を主に紹介しています。その後に、インターネットやデジタルメディアにおいても、特有のきまり／約束事を理解すれば、従来のメディア・リテラシーの学びと共に通であると説明しています。（講義）

S6 「インターネットの言語」では、デジタルメディアの場合、オーディアンスはユーザー（発信者）でもあるという特性をふまえて、Yahoo! ニュース「18 歳選挙権 主権者教育に課題」（2015 年 6 月 17 日掲載）をテクストにワークショップをしています。

S7 「ニュース報道における『現実』の構成」では、戦後 70 年の今年にちなんで、「沖

縄慰霊の日」（6月23日）のニュース分析をしました。テクストはNHK「ニュース7」およびTBS「ニュース23」で、2局の同じトピックを比較分析することにより、メディアが「現実」をどう構成しているかを学ぶワークショップです。

S8「コミュニケーションをつくりだす」では、S7でマスメディアにおけるニュース分析をしましたので、その展開として、「私たちが考える公共放送の沖縄ニュース」の企画案を作成するワークショップです。どのグループも18歳選挙権を視野に入れて、若い人びとをオーディアンスに想定し企画案を作成しています。

2日間の研修セミナーを終了して参加者の感想の一部を紹介します。

- ・インターネットのメディア・リテラシーは研究の余地がありますね。高校の実践に適用できるように作ってみたいと思いました。
- ・メディア・リテラシーが重要な課題であることを改めて実感しました。この2日間のセミナーで感じたことや発見もたくさんあり、有意義なセミナーでした。
- ・2日間みっちりセミナーを受けられるので、時間はたっぷりあるだろうと考えていましたが、2日間はあつという間でした。正直、もっと1つ1つのセッションで時間があったらよかったです。2日間では難しいでしょうが・・・
- ・主権者教育、民主主義教育をきちんと進めていく上で、メディア・リテラシーは本当に大切であると思います。自分たちの生活を守っていくためには、メディアを読み解く力はなくてはならないものだと思います。たくさんの方が興味を持ってもらえるよう、特に教員に伝えていきたいと思います。・・・

●今後に向けて

研修セミナーは、『最新 Study Guide メディア・リテラシー入門編』をベースにして組み立てられていますが、研究中のソフト「VVCex」を取り入れてのCM分析もおこないました。その一方で、戦後70年の今年をとらえたニュース分析をするという幅広い構成になっています。

メディア・リテラシーの獲得に向けて、性別・年齢・職業を問わず市民として、多様な背景の参加者による研修セミナーを、今後とも継続して開催することが、FCTに求められているということを再確認したセミナーであったと、スタッフ一同感じています。

今回のセミナーでは、大学生を中心とした若い人びとの参加が増えています。18歳選挙権制度の実施ともかかわりますが、より多くの若い人びとの参加を呼びかける努力も求められることと思われます。

最後に、共催の森田英嗣先生はじめ大阪教育大学メディア・リテラシー教育研究会の皆様に感謝申し上げます。

ファシリテーター：西村寿子・高橋恭子・田島知之・森本洋介・齋藤綾乃・小畠桃子・新開清子（記録）